

平成 26 年度 事業報告

1、概要

わが国の経済は、昨年 4 月の消費税増税による駆け込み需要の反動減と所得向上の実質的改善が見込めないための支出低下が悪影響を及ぼしました。

平成 26 年度の事業実績は、受注件数 4,991 件（昨年度対比△193 件）、契約金額 299,930 千円（昨年度対比達成率 96.6%）と減少しました。法規制により請けることができなくなった業務、正規社員を雇用したことによるシルバー離れ、選挙回数減少によるものが起因しています。また会員数においては、65 歳までの継続雇用などにより、60 歳前半層の新規会員入会が停滞しています。今後シルバーの高齢化が非常に気になるところです。

事務局では、昨年 A コープやタイヨー・ニシムタ・大隅ハローワーク・グラウンドゴルフ大会・長寿会で入会のチラシを配り、会員募集を行いました。また毎月の説明会とは別に、中央公民館で就業相談を行い、年度末会員数 512 名を達成することができました。シルバー会員の質の向上を図る為に機械メンテナンス講習会や S P 講習会・料理講習会・接遇講習会などを実施いたしました。

当センターの事故件数は、年々減少傾向にあります。パトロールの強化・安全講習会の開催・班長会など安全に対する会員の注意喚起を行って参りました。しかしながら昨年 11 月 21 日に起こった事故は、暗い影を私たちに落としていきました。シルバー人材センターの基本理念（『自主』・『自立』・『共働』・『共助』）は、近年『共働』・『共助』が欠けていると言われていきます。職域班はチームワークがなければなりません。他人はどうでもいい、自分だけはと言う考えは、センターには馴染まないのです。事故を風化させないために 11 月 21 日は、安全を改めて認識していただくように『シルバー安全の日』と制定しました。

シルバー人材センターは曾於市に無くてはならない団体です。各関連機関（国・県・市・福祉など）と連携をとりながら地域に根ざしたセンターとして運営されています。センターを取り巻く環境は依然として厳しいですが関係行政法規の遵守（コンプライアンス）を常に意識した運営を今後も行っていくまいります。

2、平成 26 年度 事業結果報告

①会員の動向

平成 26 年度末	会員数	512 名
末吉地区		288 名
大隅地区		128 名
財部地区		109 名

②事業実績（公共・民間別内訳）

区分	契約金額（円）	構成比（％）
公共	124,944,234	41.66
民間事業所	96,252,855	32.09
一般・家庭	78,733,890	26.25
全体	299,930,979	100.00

3、重点事項とその実施状況

①就業開拓提供事業の充実

- ◇ハローワーク大隅の求人資料をもとに、積極的に就業先の開拓を行なった。ヤゴローフーズ(ポテトシブヤ)や福祉施設・保育施設など契約をした。また請負で出来ない職種については、一般労働者派遣で対応した。
- ◇毎週、各地区で就業の配分会議を開催し平等・公平な配分を行った。
- ◇中期 3 ヶ年事業計画の初年度としての目標を掲げ、推進を行った。
- ◇会員・職員の接遇講習会を実施した。

②普及啓発事業の促進

- ◇地域人づくり事業を行い、会員の作品展を開催した。多くの方に来場いただき、当センターの PR となった。
- ◇生活保護世帯の会員募集や各量販店でのチラシ配布を連合会と協力し行った。また秋の元気祭りや市民祭でのバザーなどで広報に努めた。
- ◇各地区でボランティア活動を実施し、ごみ拾いや駅舎路線の清掃活動を普及啓発月間に行った。
- ◇センター機関紙・市の広報誌・ホームページを通じてセンターの PR を行った。

③安全・適正就業推進事業の徹底

- ◇安全講習会・機械メンテナンス講習会・配分会議などで安全意識の高揚を図った。
- ◇安全パトロールを各地区で行い、注意喚起をおこなった。
- ◇11 月 21 日を当センター安全の日と設定し、毎年啓発を行う。
- ◇独自に伐採・剪定の 3 m 基準を設定啓発を行った。
- ◇新人研修を行い、接遇・安全講習などを実施した。

④地域ニーズ対応事業の推進

- ◇どこでもシルバー事業・大地エコ事業については本年度無事終了した。どの事業も今後、運営上必要であることから事業を継続し今後も儲かる事業を引き続き行っていく予定である。
- ◇2年目である高齢者いきいき弁当事業は高齢者に優しい弁当の販売を行っており、毎回好評であることから継続事業として行う。またがねで村おこし事業は婚活を年2回行っており、毎回好評でもあり、また市からの要望もあり今後も実施していく予定である。